

平成30年度第2回概説部会議事録

日 時：平成30年10月4日（木）9:52～11:05

場 所：赤れんが庁舎1階 文書館打合せ室

参加者：桑原編集長、平野委員、谷本委員、榎本
委員、川上委員、蓑島委員

事務局（靄原・中谷・伊藤・山本）

1 開 会

2 議 事

- (1) これまでの経過
- (2) 概説の体裁についての検討
- (3) 委員の分担について
 - ① 原始・古代、中世・近世史グループ
 - ② 近代・現代史グループ
- (4) その他

3 閉 会

1 開 会

2 議 事

(1) これまでの経過

事務局から、概説部会（ワーキング）の開催結果、「概説」について寄せられた意見・要望、道史編さん大綱・「北海道史編さん委員会道史編さん計画」の概要について資料に基づき説明。

【川上委員】 「概説」には現代史も含まれるのか。

【桑原部会長】 現代史まで入る形で考えている。

【事務局】 現代史の部分は、現代史の先生のサポートをもらうことを考えている。

【榎本委員】 「概説」の刊行計画はどこまで固まっているのか。「概説」と通史編の関係は。我々は方針が決まっている中に参加するだけか。

【桑原部会長】 今回の道史編さん計画における「概説」と通史編の関係について、「概説」は『新撰北海道史』、『新北海道史』の第1巻のイメージに相当するもの。通史編は資料編に対応して作っていくもの。「概説」では旧来の歴史を捉え直してもらいたい。

【榎本委員】 かなりのダイジェスト版になる。戦前は通史編がない中で「概説」を作ることになり構成として疑問。

【桑原部会長】 最近の都府県の「概説」見本を参考に考えて欲しい。本体は戦後史(現代史)の通史と資料という方針。「概説」が文字中心かビジュアル中心かは皆の意見を基に決めて欲しい。1つ決まっているのは、「概説」と年表は一般に広く市販すること。道民の歴史認識に訴えかけるものとはどういうものを議論して決めていければ良い。

【榎本委員】 普及の一翼を担っている観光ボランティアでも100頁を超えるものは読まないと聞いている。600頁のものを買うのは特殊な人。100頁の廉価版と500頁という構成も考えられる。

【谷本委員】 通史は戦後からで「概説」は0から書かなければならないのが従来とは根本的に違う。

【事務局】 予算や年数の問題がある。

【榎本委員】 最初に枠が決められていては、より良いものの構想を練ることはできないのでは。

【桑原部会長】 部会から企画編集部会に上げて検討し、編さん委員会にかけるというルールはある。

【川上委員】 これまでの意見では、「通史の要約ではなく新しい成果を取り入れるもの」、また「1000頁を超えるものが必要」との意見もある。文字中心で通史に近いイメージ。

【谷本委員】 文字編とビジュアル編の2種類が必要という意見か。文字編とビジュアル編を分けるなら最初に決めておかないとたいへん。

【平野委員】 作りやすさとしては2つに分けた方がいいのかもしれないが、最初の意図は両方合わせて新しいものをとという投げかけだった。道の方針に合

致する1冊をうまく作れないのか。

【事務局】 今の予算と期間はギリギリ。普及版、ビジュアル版を分けてつくとすると、この事業からはみ出る。

(2) 概説の体裁についての検討

「概説」の参考事例について資料に基づき事務局から説明。

【桑原部会長】 普及版については県ではなく民間出版社が作っている例もある。

【榎本委員】 道民に広く普及するとは、どこを目標にするのかを含めて考えていけないといけない。薄ければ読むというわけではない。

【桑原部会長】 「平均的な道民」と考えても個人差がある。どういうものをつくれば広く道民に受け入れられるかを考えるべき。

【榎本委員】 以前のスタイルでは、通史通説をがっちり書いており、今回の構想の中では「概説」がそれに当たるのでは。でもそれでは一般向けにはならない。

【桑原部会長】 経過と流れは確認いただいた。今日結論が出るような問題でもない。今後何回かの打合せの中で決めていきたい。

【平野委員】 「概説」のとらえ方をどうするか。道民にわかりやすい「概説」を作るという方針があり、これまでの道史をもう1度見直して新しい要素を取り入れ、「概説」としてこれまでの研究成果をまとめて道民にアピールするという課題が与えられている。それをどう具現化するか。これまでの研究成果を取り入れた概説をがっちり書いたものと、中高生にもわかりやすいようにそれほど大部ではない見やすいものを作るという2つの作業があれば確かに受け取った方は見やすい。

しかし、まずはビジュアル的要素も入れた、より中身の濃い「概説」を工夫し、それがだめだった場合、10年間が終わった後にビジュアル系のものを作るという方針でいく、そういった取り決めをしてはどうか。まずはビジュアルを取り込んだ詳しい「概説」がどこまでできるかを検討した方が良いのではないか。

(3) 委員の分担について

【桑原部会長】 実際の作業の時には小委員会形式にしてはどうかということで、①前近代と②近現代のグループの2つに分けてみた。しかし、小グループ毎では全体のトータルのイメージがつかめないので、大きな事・全体の流れを把握する上では全員が集まって決めていきたいと思う。細かなことは小グループでやって結構ということで、こういう分担を決めた。

【川上委員】 時代的に考古分野の委員が一人は必要。

【葦島委員】 自分もある程度は考古を勉強しているが、考古の専門の方に何らかの形で参画していただいた方が、資料の引用、借用、いろいろな面でスムーズに行く。

【桑原部会長】 それは当然である。

【事務局】 委員には、調査研究協力委員という特定分野だけに限定した制度を用意している。

【桑原部会長】 実際に執筆する人は別途追加可能。

【川上委員】 そうであってもこの部会の場に考古の委員が必要と思う。

(4) その他

事務局から、調査要綱及び道公文書閲覧要綱、今後のスケジュール、組織並びに編さんスケジュール（案）について資料に基づき説明。

【事務局】 今年度中には計画の根幹の結論は出していきたい。部会はそれに必要な回数を開催可能。

3 閉 会

【桑原部会長】 次回は平野委員のまとめられた方向性を前提に進め、ある程度は結論を出していきたい。

(了)